

【第3回】まちづくりの目標、将来実現したいシーン・活動

- ・旧開智学校周辺におけるまちづくりの目標を意見交換しました。
- ・まちづくりの目標は、主に5つの視点の意見が出され、それぞれ取り組む理由とまちづくりを進めることで得られる効果を考えました。

まちづくりの目標	理由	効果
1. 地域資源を活かしたエリアの価値向上	・地域をブランディングしたい ・開智エリアを知ってほしい ・地域の魅力を居住者・観光客の相互理解につながる	・活性化や魅力発信 ・地域のイメージが向上することで、住人や商人のまちへの意識が高まる ・居住者の散歩の範囲が広がる
2. 居住と観光の共存・調和	・「地域と観光のすみわけ、共存」 ・「住民の暮らしに調和した観光・まちあるき」 ・「落ち着いた環境と利便性の調和」	・まちの空気感、まちの日常的な暮らし、魅力を共有できる ・観光拠点とそこからの回遊の選択肢を増やすことによる観光客の分散化（観光客・居住者の双方にメリットがある）
3. 公園のようなまち緑、山と都市	・「エリア全体で公園のような雰囲気が感じられ、過ごしやすいまち」 ・「緑のコリドー」 ・「山と都市を結ぶエリア」	・観光客にも心地よい暮らしを共有できる ・公園や自然などの地域の魅力を取り戻す ・気持ちが良く、自由な感じ ・山から流れてきた水が湧水となる地形や、山並みへの眺めがあるので、山とつながっているまちという感覚がある ・自然を大切にする人が増える ・まち全体が公園化して過ごしやすくなる
4. 会話のあるまち	・「会話・交流・安心感のあるまち」	・誰かがまちにいる、顔見知りの人がいる環境は安心につながる。 ・住民同士や観光客とのあいさつがあることで、コミュニティ・交流が育まれる。日頃から会話する間柄でいると、まちの課題にも対応しやすい
5. 各世代に応じた居場所があるまち	・「帰って来れるまち・帰って来たくなるまち」 ・「人生のフェーズに応じた居場所がエリア内に同居」 ・「若者が住める場を増やす」	・子どもの頃のよい思い出を残すことで、故郷に帰ろうと思ってもらう ・幼少期のまちの思い出ができ、まちを出ていった人が戻ってくる ・子どもにとって大切なまちになる ・居酒屋や駄菓子屋など多様な世代の居場所ができる ・若者が増え、消費力が高まる

- ・旧開智学校周辺を構成する3つのエリアについて、将来実現したいまちのシーン・活動を意見交換しました。
- ・将来実現したいまちのシーン・活動は、エリア毎に特徴のある意見が出され、**①旧開智学校周辺と②二つの国宝を結ぶ動線**は三の丸エリアビジョンに掲げられる将来像とも方向性が合致した意見が出されました。

①旧開智学校周辺

- ・休憩・読書・カフェ・生き物を眺めるなどの「**ゆっくり過ごす滞在**」
- ・地域の歴史や地域学習などの「**日常的な学び、文化体験**」がある



③界隈、眺め

- ・ホテル等の生きものやゆらぎのある自然景観の観察・眺めや、井戸端会議などの「**身近な風景の眺めや生活の体験**」
- ・住民同士や、住民と観光客での「**地域資源の学び合い**」

②2つの国宝を結ぶ動線

- ・「**気軽に立ち寄れる店がある**」
- ・居酒屋と駄菓子屋の併設店に寄る、エリアの歴史紹介などの「**多世代や住民・観光客の交流**」
- ・「**歩いて楽しく、心地よい**」



※シーンのイラストは「三の丸エリアビジョン」より引用